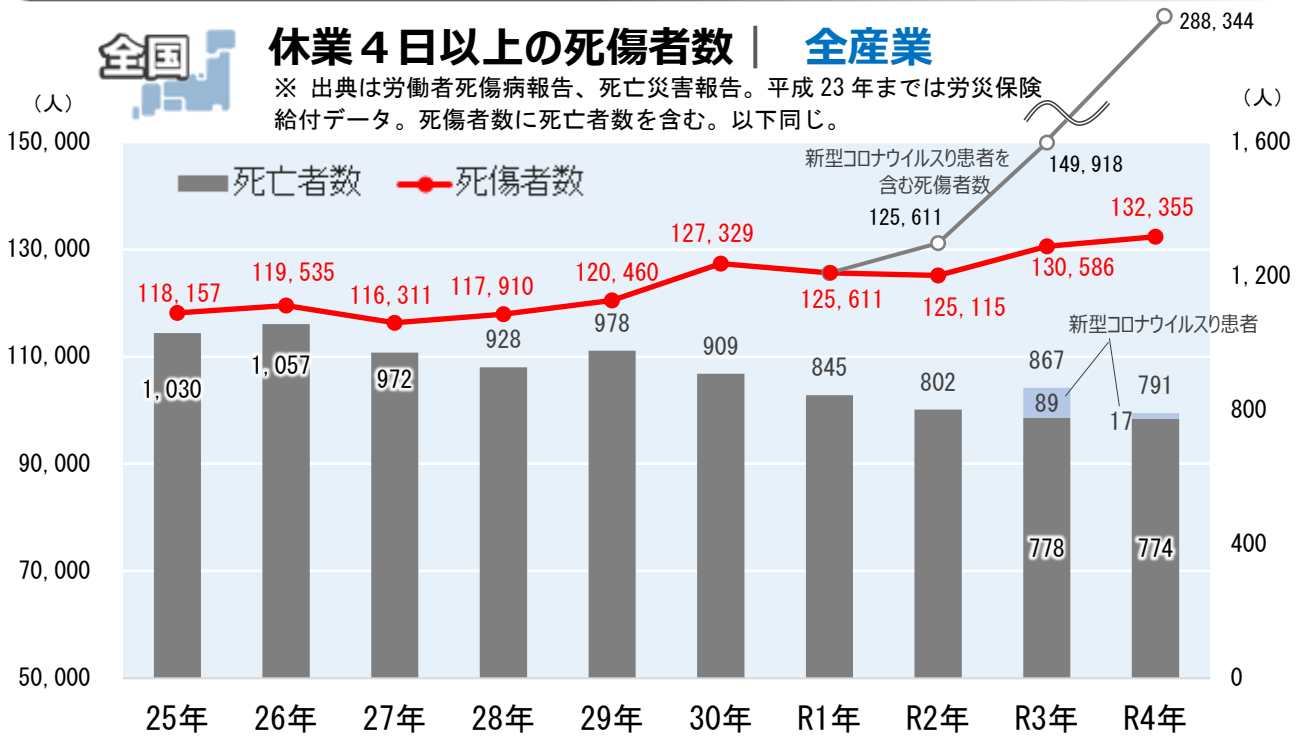


労働災害発生状況

全国

休業4日以上之死傷者数 | 全産業

※ 出典は労働者死傷病報告、死亡災害報告。平成23年までは労災保険給付データ。死傷者数に死亡者数を含む。以下同じ。

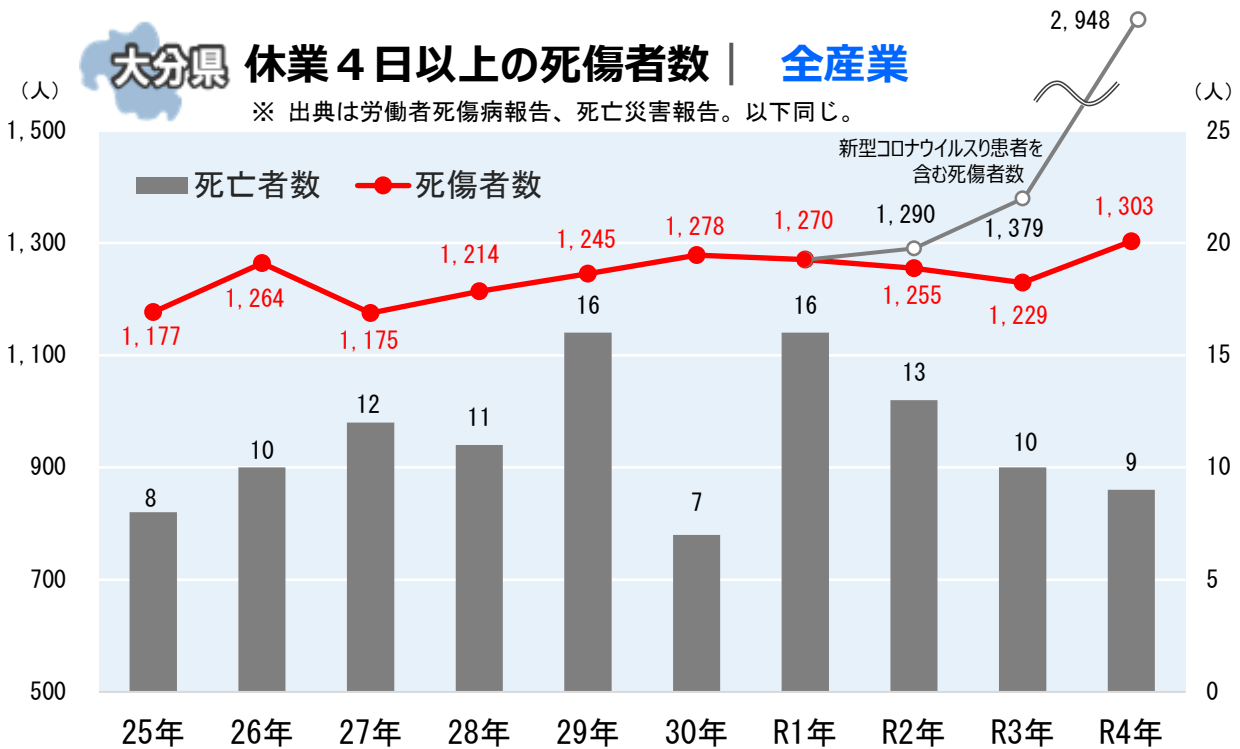


☞ 令和4年の死亡者数は791人で、過去最少となりました。

☞ 令和4年の死傷者数（新型コロナウイルス患者除く）は、前年から1.4%増加し、平成19年以降で最多の132,355人となりました。新型コロナウイルス感染症の患者は155,989人で、これを合わせた死傷者数は288,344人となりました。

大分県 休業4日以上之死傷者数 | 全産業

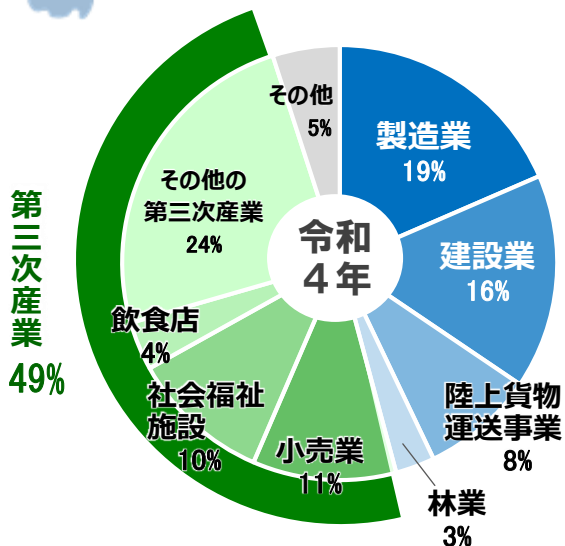
※ 出典は労働者死傷病報告、死亡災害報告。以下同じ。



☞ 令和4年の死亡者数は9人でした。

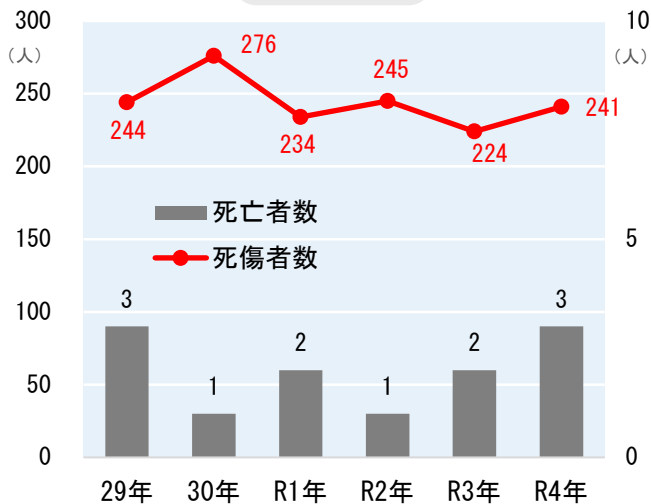
業種別内訳では、製造業3人、建設業3人、林業2人、陸上貨物運送事業1人でした。

☞ 令和4年の死傷者数（新型コロナウイルス患者除く）は、前年から6.0%増加し、過去10年で最多となりました。新型コロナウイルス患者は、1,645人で、前年の150人から大幅に増加しました。



☞ 第三次産業の労働災害が49%を占めています。

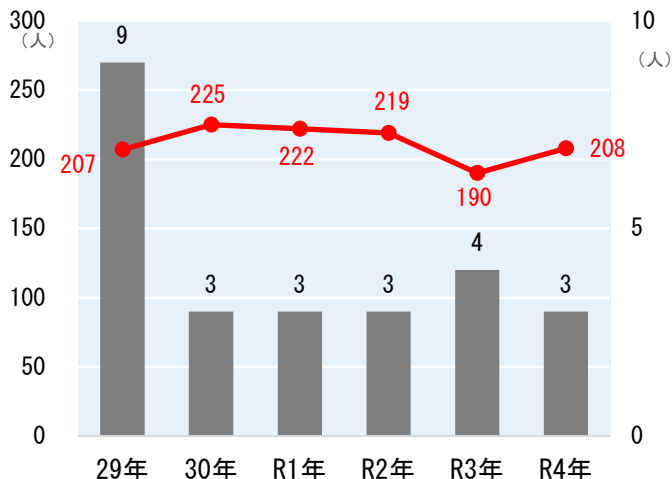
製造業



☞ 死亡災害は3件発生しました。

☞ 死傷者数は増減を繰り返しています。

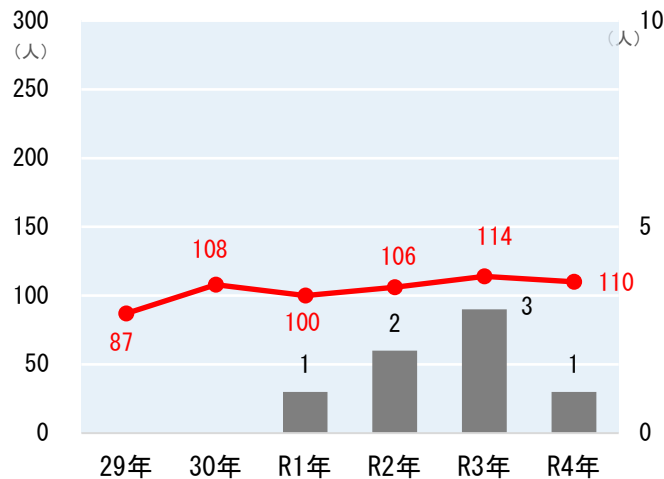
建設業



☞ 死亡災害は3件発生しました。

☞ 死傷者数は減少傾向にありません。

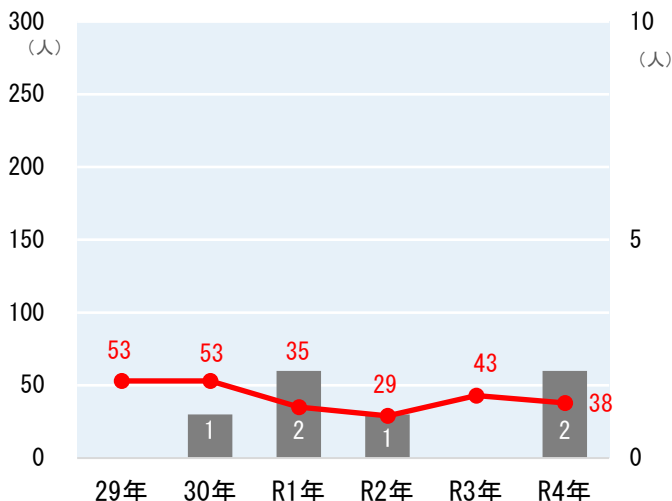
陸上貨物運送事業



☞ 死亡災害が4年連続で発生しました。

☞ 死傷者数は5年連続で100人以上でした。

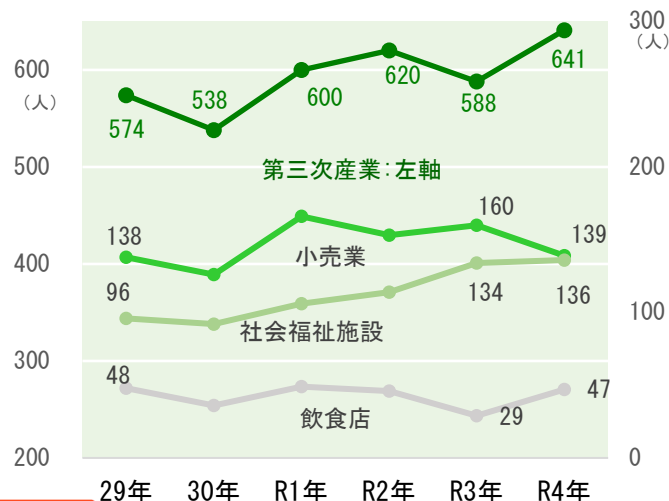
林業



☞ 死亡災害が2件発生しました。

☞ 死傷者数は5年間で28%減少しています。

第三次産業 | 死傷者数



☞ 第三次産業の死傷者数は、5年間で19%増加しています。とくに、社会福祉施設が増加を続けています。

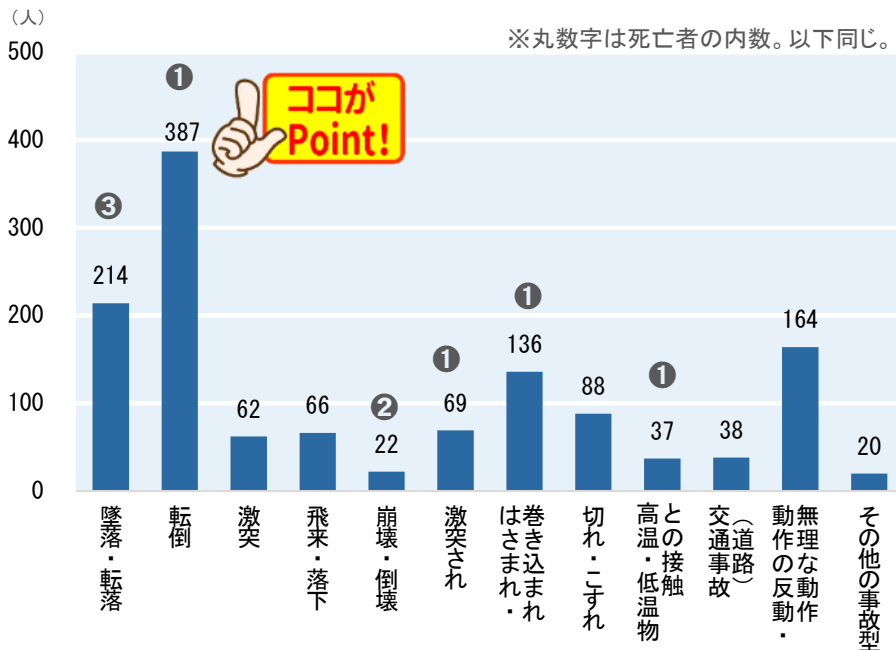
業種	令和4年		令和3年		死傷者増減数	死傷者前年比
	死亡者	死傷者	死亡者	死傷者		
1 食料品製造業		44		44	0	100.0%
2 繊維工業		0		1	▲1	0.0%
3 衣服その他の繊維製品製造業		3		0	3	
4 木材・木製品製造業		25		29	▲4	86.2%
5 家具・装備品製造業		5		6	▲1	83.3%
6 パルプ・紙・紙加工品製造業		2		3	▲1	66.7%
7 印刷・製本業		0		1	▲1	0.0%
8 化学工業		16	1	14	2	114.3%
9 窯業土石製品製造業		18		19	▲1	94.7%
10 鉄鋼業	1	5		1	4	500.0%
11 非鉄金属製造業		0		1	▲1	0.0%
12 金属製品製造業		27		22	5	122.7%
13 一般機械器具製造業	1	10		15	▲5	66.7%
14 電気機械器具製造業		7		9	▲2	77.8%
15 輸送用機械等製造業		52		35	17	148.6%
16 電気・ガス・水道業		4		1	3	400.0%
17 その他の製造業	1	23	1	23	0	100.0%
1 製造業 ☆	3	241	2	224	17	107.6%
2 鉱業		0		2	▲2	0.0%
1 土木工事業		71	1	67	4	106.0%
2 建築工事業	2	85	2	90	▲5	94.4%
3 その他の建設業	1	52	1	33	19	157.6%
3 建設業 ☆	3	208	4	190	18	109.5%
1 鉄道・軌道・水運・航空業		1		1	0	100.0%
2 道路旅客運送業		8		13	▲5	61.5%
3 道路貨物運送業 ☆	1	108	3	112	▲4	96.4%
4 運輸交通業	1	118	3	126	▲8	93.7%
1 陸上貨物取扱業 ☆		2		2	0	100.0%
2 港湾運送業		5		3	2	166.7%
5 貨物取扱業		7		5	2	140.0%

業種	令和4年		令和3年		死傷者増減数	死傷者前年比
	死亡者	死傷者	死亡者	死傷者		
1 農業		34		27	7	125.9%
2 林業	2	38		43	▲5	88.4%
6 農林業	2	72		70	2	102.9%
1 畜産業		12		19	▲7	63.2%
2 水産業		4		5	▲1	80.0%
7 畜産・水産業		16		24	▲8	66.7%
1 卸売業		28		17	11	164.7%
2 小売業 ☆		139		160	▲21	86.9%
3 理美容業		3		0	3	
4 その他の商業		12		9	3	133.3%
8 商業		182		186	▲4	97.8%
9 金融・広告業		6		5	1	120.0%
10 映画・演劇業		0		1	▲1	0.0%
11 通信業		9		18	▲9	50.0%
12 教育・研究業		13		9	4	144.4%
1 医療保健業		61		66	▲5	92.4%
2 社会福祉施設 ☆		136		134	2	101.5%
3 その他の保健衛生業		1		1	0	100.0%
13 保健衛生業		198		201	▲3	98.5%
1 旅館業		34		32	2	106.3%
2 飲食店 ☆		47		29	18	162.1%
3 その他の接客娯楽業		22		20	2	110.0%
14 接客娯楽業		103		81	22	127.2%
15 清掃・と畜業		84		59	25	142.4%
16 官公署		1		0	1	
17 その他の事業		45	1	28	17	160.7%
第三次産業合計		641	1	588	+53	109.0%
合計	9	1,303	10	1,229	+74	106.0%

※死亡者数は、死傷者数の内数。 ※☆は13次防の重点対象業種。同重点対象業種のうち「陸上貨物運送事業」は4-3と5-1の合計 ※「第三次産業」は8号～17号の合計。

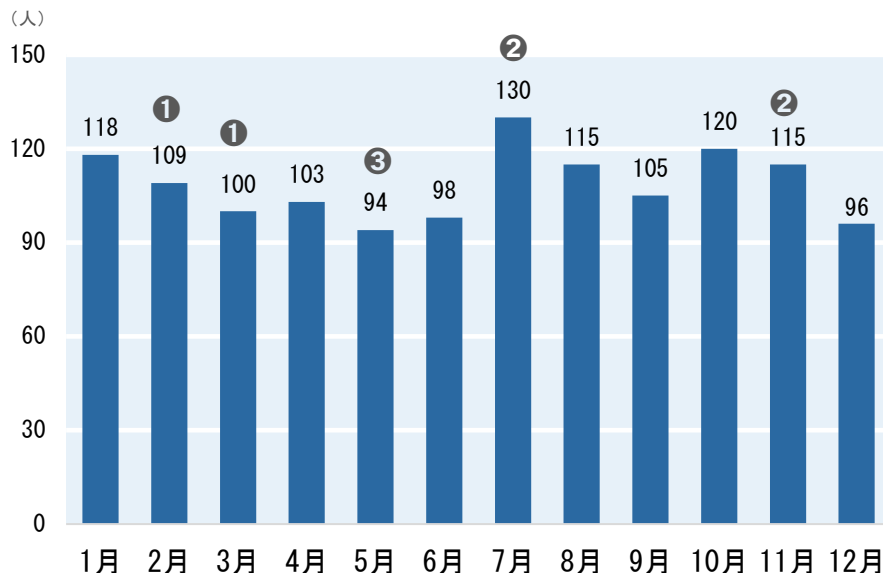
事故の型別

- ☞ 13年連続で「転倒」が最多となっています。令和4年の「転倒」の割合は29.7%となっています。
- ☞ 「墜落、転落」「崩壊、倒壊」で複数の死亡災害が発生しています。
- ☞ 「動作の反動、無理な動作」には腰痛などが含まれています。



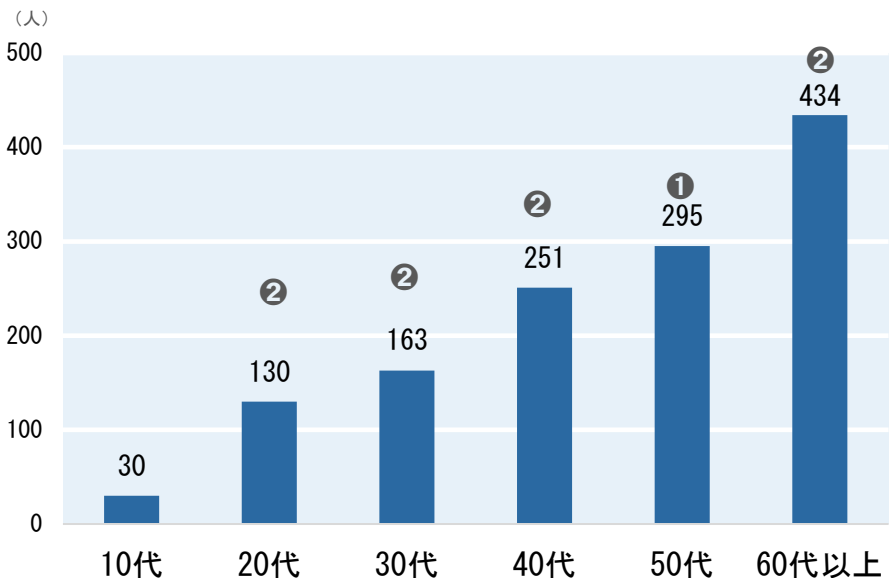
発生月別

- ☞ 7月に最も多く発生しています。次いで10月、1月の順に多くなっています。
- ☞ 死亡災害は5月が最も多く、3件発生しています。



被災者年齢別

- ☞ 年代が高くなるにつれて死傷者が増えています。50代以上で全体の56%となっています。
- ☞ 死亡者は20代以上の全ての年代で発生しています。



大分県 死亡災害発生状況 | 令和4年

No.	発生月	性別	職種	災害発生状況
	時間帯	年齢	経験	
	業種	事故の型		
		起因物		
1	2月	男	作業員	山林内で伐採作業中、立木（高さ約30m、胸高直径約30cm）を伐倒したところ、伐倒方向にあったかかり木（長さ約30m、胸高直径約40cm）が跳ねて、激突したものの。
	9時台	20代	3か月	
	林業	激突され 立木等		
2	3月	男	作業員	フォークリフトで原木の荷降ろし作業中、方向転換のため後進したところ、地面の段差でバランスを崩して転倒してフォークリフトの下敷きになったもの。
	15時台	30代	1か月	
	林業	転倒 フォークリフト		
3	5月	男	作業員	ベルトコンベヤーのエンドプリー部にあるベルトのゴム製クリーナーを交換する準備作業中、エンドプリー部のベルトとホッパーの鋼製囲いとの間に挟まれたもの。
	4時台	30代	15年	
	鉄鋼業	はさまれ、巻き込まれ コンベヤー		
4	5月	男	解体工	解体工事現場において、2Fの庇（高さ5m、幅50cm）の上で作業中、壁のレンガが崩壊したため、当該レンガとともに5m下の歩道に墜落したもの。
	16時台	50代	10年	
	その他の建設業	崩壊、倒壊 建築物、構築物		
5	5月	男	運転手	荷主先において、トラックに積まれた木材のベルト掛け作業を行っていたところ、ビニールシートに足を引っ掛け地面に墜落したものの。
	11時台	40代	8年	
	道路貨物運送業	墜落、転落 トラック		
6	7月	男	作業員	屋根の補修作業中、スレートを踏み抜き、高さ約5メートルから地面に墜落したものの。
	13時台	60代	40年	
	建築工事業	墜落、転落 屋根、はり、もや、けた、合掌		
7	7月	男	作業員	クリーニング工場における寝具の仕分け作業終業後、工場内の通路に倒れているところを発見され、同日、熱中症により死亡したものの。
	17時台	40代	2か月	
	その他の製造業	高温、低温の物との接触 高温、低温環境		
8	11月	男	作業員	横フライス盤で鋼板（縦1.5m、横2.5m、厚さ3cm、重さ約880kg）を加工するため、鋼板を横移動させる作業を行っていたところ、鋼板が被災者に向かって倒れ、横フライス盤本体との間に挟まれたもの。
	8時台	20代	40か月	
	一般機械器具製造業	崩壊、倒壊 金属材料		
9	11月	男	作業員	住宅の塗装工事現場において、屋根上の確認作業を行っていた被災者が地面に横たわっているところを事業者が発見されたもの。
	8時台	60代	25年	
	建築工事業	墜落、転落 屋根、はり、もや、けた、合掌		